

実施日：12月1日（月）4校時	
教科等：総合的な学習の時間	
取組名：みんなが安心して過ごすための工夫を考えよう 資料名：「どんな工夫ができるかな」（『ほほえみ』令和4年度版）	
対 象：4年生	実施場所：教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 「誰か一人のため」に偏らず、多様な仲間全員にとって使いやすい工夫（ユニバーサルデザイン）の視点から、生活環境をよりよくする方法を考える力を育てる。 ・ 工夫を友だちと交流し、多面的に考えながら、学級の一員としてよりよい生活をつくろうとする意欲を育む。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 導入では、資料の挿絵を段階的に提示し、「この見え方だと、自分だったらどんな気持ちになる？」という発問から、自分事として『困り』を捉える視点を引き出す。また、教員が板書で児童の気付き（見えにくい・つまづく・方向が分からない等）を整理し、「困りの背景にある環境要因」へ意識を向けさせる。 ・ 展開前半では、個人で工夫案を考えさせる。その際「本人の努力で解決」ではなく、環境・仕組みの側に働きかける工夫を促す声掛けを行う。バリアフリーとユニバーサルデザインを板書で整理し、児童が学びの概念を構造化できるよう支援する。 ・ 展開後半では、グループで、みんなのための工夫についての話し合いを行う。その際多数決ではなく理由を重視するよう声掛けを行う。理由には、「誰が」「どの場面で」「どんな困りが解消されるのか」を言語化させることで、児童の思考の深まりを可視化する。 	
ウ 連携先：家庭、特別支援教育コーディネーター	
エ 連携にむけての取組 <p>授業で出た「学級をよりよくする工夫」を家庭通信などで共有し、家庭でも子の視点の変容を理解できるようにする。特別支援教育コーディネーターと情報共有し、校内のバリアチェック（段差・掲示物高さ・導線確認など）に結び付ける。</p>	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級活動・生活指導・特別支援教育部会と連動し、児童の「困りへの気付き」と「行動変容」が継続的に育つよう授業後の情報共有を行う。 ・ 本時の気付きが、清掃・登校・休み時間の過ごし方などの改善に反映できているかを複数教員で観察し、日常生活の中で評価する体制をとった。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りの内容（生活改善に向けた意欲・具体的な状況や手立てを考えられているか） ・ グループ交流での協働性 ・ 日常生活の中での行動変容（登校・清掃・移動の様子） 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が「困っている人の立場」を具体的に想像し、「自分がどう支えるか」「環境をどう変えるか」の視点で考えられるようになった。 ・ 工夫を「みんなのための仕組み」として捉えられる児童が増え、学級の話し合いが個人支援→集団改善へと転換した。 ・ 実生活でも、廊下を広くあけたり、掲示物の見やすさに配慮したりする行動が増え、学級全体の生活改善に寄与した。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 工夫を実際の学校環境に反映するために、継続的に校内環境を点検する必要がある。 ・ 個別的支援と全体的支援の違いについて、継続的に具体例を積み重ね、児童の理解を深めていく必要がある。 	